

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	270102312
法人名	有限会社ブロンディ
事業所名	グループホームブロンディ
所在地 (電話番号)	〒030-0847 青森県青森市東大野一丁目21番2号 (電 話) 017-762-3901

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 14日	評価確定日	平成 19年 12月 5日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 1月 5日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤	13 人, 非常勤	2 人, 常勤換算 14.4 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	15,000 ~ 冬季18,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 60 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	とよあきクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部から少し離れた青森市大野の閑静な住宅街にある。区画整備されたモデル住宅地、学園地区であり、また、病院・屋内スケート場等の施設や大型店舗のある商業街地のなかにある。18年1月開所の2階建ての住宅で駐車場が広く、来客者の車輛も十分なスペースがある。1階9名・2階9名の入居者が生活している。職員は、普段の会話を通して入居者との意志疎通が出来ており、細かな声掛けをせず様子を見ている。役割を任された入居者は、それを自分の生活の中の自然な動きにしており、互いに支え合う暮らしがある。また、終末期ケアに取り組んでおり、24時間の主治医クリニックのサポートを受けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回運営理念の掲示がないとしていたが、玄関に19年度の目標と共に掲示されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 毎月1回の定例カンファレンスのなかで外部評価の説明を行い、昨年の指摘事項の改善・検討を行っている。また、自己評価の全項について職員全員で検討して実施の意義を理解するようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 施設内の設備・室内の見学、食事・行事について説明している。年間の行事では、「夏祭り」を町会とホームで行っているため、相互に協力し、参加するようにしている。職員の対応・態度について家族から指摘があり、職員内で検討した後、運営推進会議の議題に挙げて検討した。投書箱を各階に設置した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11) 家族のからの意見は、管理者に報告されて定例会議で職員全員で検討している。投書箱を設置して意見の集約をしている。これらの内容は、運営推進会議の議題に挙げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域町会長・婦人部との交流がある。青森中央短期大学看護科の実習の受け入れや青森中央高校の総合学習として生徒との交流がある。ホーム代表は、地区の民生委員を委嘱されており地区の福祉活動に携わっている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者主体の「3つのサポート」を事業所独自の理念としている。理念は職員全員で作成している。また、年度ごとに目標を設定して、スタッフの具体的な行動指針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度末研修で理念に基づいた行動が出来たか職員の個人面談や自己評価を実施して目標達成に努めている。代表・管理者から毎月1回の定例カンファレンス、日々の引継ぎを通して、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	施設は、開所してまもなく浜田ニュータウン町会に加入している。ホームの代表は地区の民生委員をしており、町会との関わりが深い。これまで地域婦人部20名ほどが見学している。認知症の冊子による説明を行い、認知症に対する理解を深めている。また、町会行事の夏祭りとホームの夏祭りにおいては、相互に協力し、参加交流を行っている。青森中央短大看護科の実習受入れや青森中央高校の総合学習として生徒との交流がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回の定例カンファレンスのなかで外部評価の説明を行い、昨年の指摘事項の改善検討を行っている。また、自己評価は職員全員で検討して実施の意義を理解するようにしている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員・町会長・地域包括支援センター職員・入居者・入居者家族・職員を参加メンバーとして開催している。テーマを決めて食事・行事内容等について検討している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは、実地指導を受けたときに、指摘事項の対応について運営やサービスに関わる相談をしている。運営推進会議を開催するにあたって、事前に市の担当窓口相談しに行ったが回答はなかった。市の担当職員に運営推進会議開催の案内を出しているが1度も来ていない。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の紹介は行ったことはあるが、勉強会は開催していないので、今後実施する予定である。	○	県社協の地域福祉権利擁護事業「あっぱるハート」で作成しているパンフレット等を参考にして勉強会を開催することを望みます。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の防止」研修に職員が参加し、報告研修で発表している。言葉による虐待に鑑み、事業所として「言葉のルール」作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、細かな点について十分な説明を行っている。この時に家族の提案についても検討し、対応している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況報告については、年3回を目標に広報誌を発行して家族へ伝えている。また、家族の面会時や毎月の請求時に報告をしている。金銭出納については、個別に金銭出納簿を作成し、毎月請求時にコピーを送付している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から面会時にスタッフの態度について指摘があり、職員内で検討し、運営推進会議のなかでも報告・検討した。また、各階に投書箱を設置して意見集約の手段としている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職は最小限になるよう努めている。新職員は広報誌で紹介し、退職者については心理的ストレスに配慮し、事前に入居者へは伝えず、当日退職者から伝えている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフに研修案内を掲示して、積極的に参加の呼びかけをしている。資格取得には、研修の紹介を助言している。内部研修では、2ヶ月に1度、主治医から血圧・水分・感染症の研修をうけている。外部研修に参加した職員は、復命・報告発表している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流では、地域のグループホームの入居者・職員を夏祭りに招待している。今秋には、地域のグループホーム職員を集めてリハビリ講習会を開催予定。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居判定は、代表・管理者・医師による判定会議を行っている。事前に家族が見学をしてホームの雰囲気を感じてもらう。入居決定後は、管理者が自宅に面会を数回行ってホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設の過ごし方として役割分担を勧めているホームは多いが、ここでは配膳や下膳、食器洗い等が職員の声掛けもなく、自らの動きとして、入居者の生活そのものとなり、自然に行動している。リネン交換などは時間がすぎると、職員に始める時間ではないかと、入居者から声を掛けられ促される。共に過ごし支えあう関係ができています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全般・生活履歴をセンター方式全シートでアセスメントしている。入居者との会話・家族からの情報の把握に努めている。一人ひとりの思い、訴えを大切に、的確な対応となっているか常に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月第3週目にカンファレンスを実施して課題の解決・検討を行っている。センター方式でのアセスメントにより、職員全員の意見や家族の意見を反映した介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスを定期的実施し、緊急性の高い検討課題や新規入居者に対しては、勤務時間外で臨時の打合せ会議を開き、職員全員で検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	口腔ケアを進めており、歯科衛生士の指導により実施している。2週間に1度のクリニック受診をグループホームで行っている。他科受診もグループホームで通院援助している。また、透明性を確保した上で、年金等の手続きをグループホームが行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームで2週間に1度のクリニック受診を行っている。緊急時の往診を実施しており、入院も可能である。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身の状態に変化が出てきた段階から家族と相談し、医師の意見を聴いて方針をたてる。現在、中心静脈栄養法による24時間点滴を受けている方の終末期の対応を行っている。協力医院の医師や看護師が往診・訪問して経過を見ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のドアやドア付近に表札や表示をせず、食堂ホールは簡素な飾りつけにとどめている。職員は居室・浴室・トイレを間違え利用に対して声がけを行ない、また誘導している。記録等の個人情報の取り扱いは職員室に保管している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月・水・金は食材購入のために、入居者と共に出かけている。入居者の希望を取り入れてメニュー作りをしている。日課を強制せず、役割をもって生活の中で自然な行動を支援している。表情も言葉にも生き生きとした感情表現があり、笑顔がみられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。食事中は職員から楽しい話題が出されていて、離れたテーブルから職員が話しかけたりして全体に気を配る様子が伺える。また、訴えの少ない入居者へ意識的に声を掛ける等の配慮がなされている。行事食や外食(焼肉)がある。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭用のお風呂で一人でゆったりと入浴できる。毎日入浴を実施しており、入居者の希望にあわせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を持って、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。リネン等は自分でできる入居者はシーツやカバー類をはがしているが、職員がくるのを待ちきれず声をかける方もおり、生活の躍動感を感じる。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徒歩で5分の所にコンビニエンス・ストアやヨーカドー青森店があり、買い物や散歩の希望があれば随時出かけている。また、気分転換として外出を活用している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしている。カンファレンス等の会議で、職員に周知させている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることでの入居者に対しての弊害を理解しており、日中は施錠していない。夜間は施錠。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	代表が防火管理者で消防署への消防訓練の通知、消防設備の点検を行っている。年2回の消防訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を聴いて、栄養摂取量に配慮している。毎食時の水分摂取を心掛けている。体重のチェック表がある。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関先に消毒設備があり、手指の消毒を行っている。感染症に対する予防や対応についての県のマニュアルがあり、説明書を全スタッフに配布して周知している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、エアコン・パネルヒーター等の設備があり、温度調節されている。リビングの壁面には絵画が飾られている。カーテンは、レースと遮光の二重になっており、光の調節ができるようにしている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使用してきた家具・食器を持ち込んでいる。カーテンは、レースと遮光の二重になっており、適度に光の調節をして心地よく過ごせるようにしている。		

 は、重点項目。